

今週の為替相場見通し(2022年8月1日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		132.51 ~ 137.45	133.22	128.50 ~ 137.50
ユーロ	(ドル)		1.0097 ~ 1.0258	1.0227	1.0000 ~ 1.0500
(1ユーロ=)	(円)		135.58 ~ 140.07	136.27	133.00 ~ 139.00
英ポンド	(ドル)		1.1962 ~ 1.2245	1.2184	1.1850 ~ 1.2250
(1英ポンド=)	(円)	*	161.54 ~ 166.34	162.20	161.00 ~ 165.00
豪ドル	(ドル)		0.6878 ~ 0.7032	0.6991	0.6910 ~ 0.7050
(1豪ドル=)	(円)	*	92.88 ~ 95.70	93.12	92.00 ~ 95.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 原田 和忠

(1) 今週の予想レンジ: 128.50 ~ 137.50 円

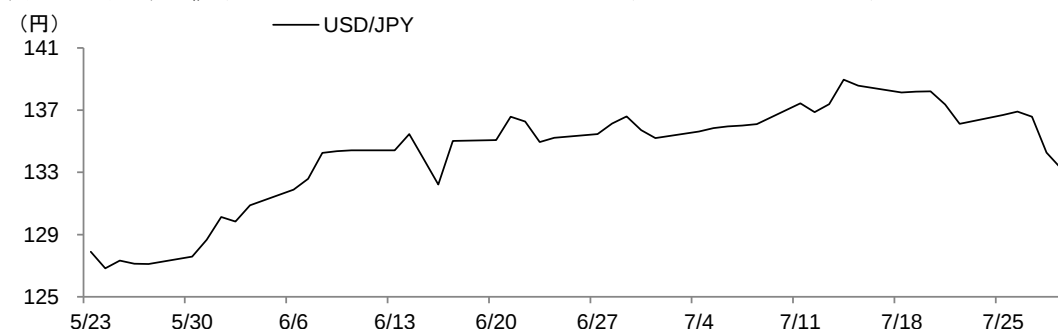
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半に急落した。週初25日、136.35円でオープンしたドル/円は5・10日に伴う実需のドル買いから仲値にかけて上昇した後は日経平均株価の下落に135円台後半まで連れ安の展開。その後はロシアが欧州に対し天然ガスの供給を制限することを発表しユーロ売りが加速、ドル/円は136円台後半まで反発した。26日、ドル/円は翌日にFOMCを控え様子見ムードが広がる中、株式市場の軟調推移に値を下げる場面もあったが、その後は米金利上昇にサポートされ137円手前まで上昇。27日、ドル/円は137円ちょうどを挟んでの小動きも、海外時間では米6月耐久財受注の良好な結果に一時週高値の137.45円まで値を上げた。注目のFOMCでは市場予想通り+75bpの利上げを決定も、次回会合での大幅利上げは今後のデータ次第というパウエルFRB議長の発言に136円台前半まで急落した。28日、ドル/円は前日海外時間からのドル売りが続き、さらに米4~6月期GDPの冴えない結果や米金利低下を受け一時134.20円まで続落した。週末は東京時間に大きく下落し、週安値の132.51円をつけた。ヘッドラインが見られない中で東京時間午後から下落し、133円割れを示現。海外時間に入りやや買い戻しが入り、133.22円で越週した。

今週のドル/円相場は上昇を予想。先月行われたFOMCでは大方の予想通り+75bpの利上げを実施。特段目新しい材料はなかった一方、直近の米国内におけるインフレや経緯気指数の不透明感から、今後の方向感を明確に示すこともなかった。引き続き経済指標や、Fed高官の発言が重要視されるだろう。今月下旬にはジャクソンホール会議が開催予定である。今回のFOMCでは特定のガイダンスを提供しなかったため、今後の利上げプロセスを推し量るうえでジャクソンホール会議の注目度は上がったといえる。他方、先月の日銀金融政策決定会合ではマイナス金利とYCCを継続。展望レポートでは、物価の見通しが上方修正され、企業の物価見通しも高水準にあることが触れられた。一方で、経済見通しが下方修正されるとともに、もう一段の賃金の上昇が必要とし、緩和継続の意思を強調した。こうした政策を背景に、日米金利差は拡大。加えて、今月は夏休み相場となり、ここも堅調な米株式市場は閑散売りなしの状況でサマーラリーとなるのであれば、米金利はさらに上昇。ドル/円相場は底堅い動きとなろう。今週の主な予定としては、1日(月)に米7月ISM製造業景況指数、3日(水)に米7月ISM非製造業景況指数、4日(木)に米新規失業保険申請件数、5日(金)に米7月非農業部門雇用者数及び失業率等の雇用関連指数の発表を控えている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(7/25~7/29)の値動き: 安値 132.51 円 高値 137.45 円 終値 133.22 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 山岸 寛昭

(1) 今週の予想レンジ: 1.0000 ~ 1.0500 133.00 ~ 139.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は乱高下、値幅を伴いつつも方向感なく推移。週初25日、1.02ちょうどでオープンしたユーロ/ドルは独7月IFO企業景況感指数の不冴えない結果に1.01台後半まで下落も、ECB関係者のタカ派的な発言に週高値の1.0258まで上昇。ただ、その後にロシアの国営ガス企業がノルドストリーム1のガス供給を減少する方針を発表し、ユーロ/ドルは再び1.02台前半まで値を下げた。26日、ユーロ/ドルはイタリアの政局混迷やロシアの前日の決定を背景に欧州経済の先行き不安が高まりユーロ売りが加速、1.01ちょうど付近まで急落。27日、1.01台半ばで揉み合いだったユーロ/ドルは米金利上昇に伴うドル買いに一時週安値の1.0097まで下落。ただし、FOMC後のパウエルFRB議長の記者会見がハト派的とされドル売りが加速し、1.02台前半まで急反発した。28日、ユーロ/ドルは1.02ちょうどを挟んで推移したのち、ユーロ圏7月消費者信頼感指数の不冴えない結果に1.01台前半まで急落。その後は米金利低下に伴うドル売りもあって1.01台後半まで持ち直した。29日、対円でドル売りが強まり、ドル売りの流れでユーロ/ドルは1.0255まで上昇。注目の7月消費者物価指数(HICP、速報)の結果は前年比8.9%上昇で過去最高を更新、2GDPも予想を上回る数字となり、ユーロは堅調に推移するも、一連の米経済指標が強い数字となりドル買いが強まるとユーロ/ドルは下落に転じ、1.0147まで下落。その後は米金利低下にサポートされてユーロが買い戻され、1.0227で越週。

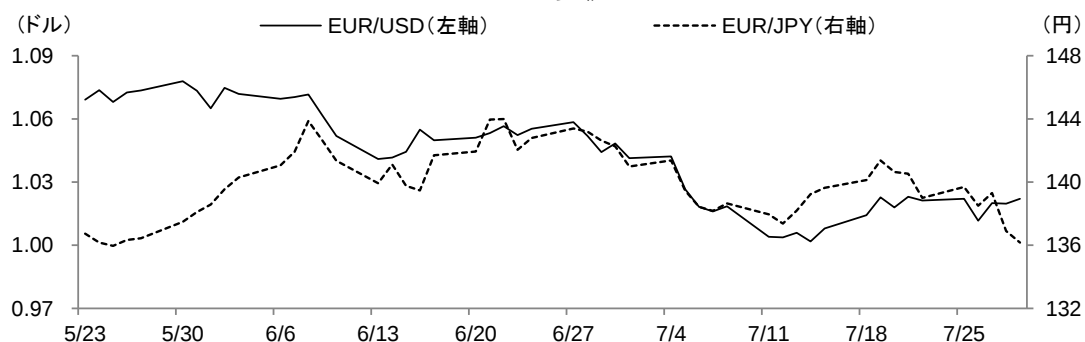
今週のユーロ/ドル相場は、強弱材料が交錯するなか、ユーロの底堅い展開を予想。テクニカル的には節目とされた1ユーロ1ドルを一度割れたあとは反発しており、パリティ割れで短期的には下攻めの達成感が出たような印象。相場の先行きについては、ユーロ圏のインフレ高進と金融政策が引き続き最大のテーマと見られ、ECBがタカ派スタンスを崩していないことがユーロのサポート材料となりそう。ラガルドECB総裁は7月23日公開のブログで、足許のインフレ率は高すぎると強調し、物価上昇率が2%に戻るまで「必要な限り利上げを続ける」と表明。ユーロ圏の消費者物価上昇率は8%超と過去最高水準。インフレ抑制姿勢を鮮明にしており、ECBの利上げ継続観測が続く限り、ユーロは底堅く推移するものと予想する。一方で、今後の利上げについては新たなデータ次第としつつ、ユーロ圏内ではバルト三国の20%近辺からフランスの6%台までインフレ率にも大きな開きがあり、コンセンサスを得るのは容易ではなさそう。またECBが利上げを急ごうとするほど、財政事情が厳しいイタリア、ギリシャなど南欧諸国の金利上昇による債務負担への懸念が高まるという、共通通貨ゆえの難しさも抱えている。TPIで安定化を図るものの、金融市場の波乱が収まらずに利上げがとん挫するような見方が強まれば、ユーロ売りが強まりそう。またウクライナ情勢が影響するユーロの需給悪化も下落要因。ロシアに依存する天然ガスなどの輸入価格高騰で、ドイツの5月貿易収支が2008年以降で初めて赤字に転落。情勢の早期改善が見込みづらく、需給は当面ユーロの下押し圧力となりそう。来週は経済指標では、3日(水)ユーロ圏6月PPI、ユーロ圏6月小売売上高が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(7/25~7/29)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0097 高値 1.0258 終値 1.0227

(対円) 安値 135.58 高値 140.07 終値 136.27



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

欧州資金部 神田史彦

(1) 今週の予想レンジ: 1.1850 ~ 1.2250 161.00 ~ 165.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場はやや持ち直し。週初25日はドルが全面安で始まり、ポンドはユーロ買いにつれて1.20台後半まで買われる。ただロシア側が(タービンのメンテナンスに伴い使用不可との理由で)欧州向け天然ガスの供給を絞るとの報道で、ドル売りは止んだ。26日にもロシア側から「他のタービンにも問題が見つかった」とのヘッドラインに下落するユーロにつれてポンドも一時1.20台を割り込むが米国時間にかけて1.20台半ばへ反発。27日はFOMCを待つ中で前日の動きが続き1.20台後半まで上昇する場面もあったが押される方向感のない推移。FOMCでパウエルFRB議長が利上げペースの鈍化に言及しドルが売られるとポンドは買われ、28日には1.21台後半で取引が始まる。その後は上値重く1.21付近まで押されるが、午後に米第2四半期GDP(前期比)が予想を下回りマイナス成長となると米金利の低下にドル売りとなり再びポンドは1.21台半ばへ上昇。29日はECB副総裁が通貨市場を注視している、とのコメントに朝方ユーロが上振れるのにつれて1.22台半ばまで上伸したが程なく利食われると今度は1.21を割り込む荒い値動き。その間米経済指標がやや予想対比タカ派的だったこともあるが、結局欧州引けにかけてドルが再び軟化しポンドは再び1.21台半ばまで戻した。

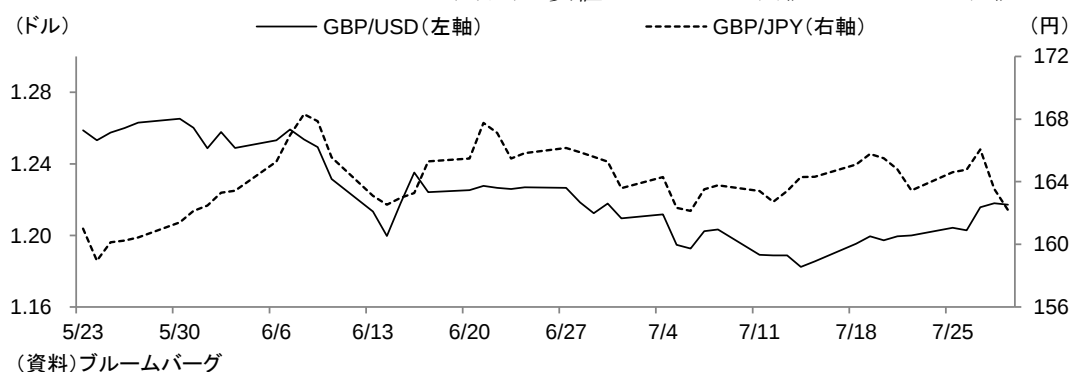
今週の英ポンド相場は、引き続き上値重い展開を予想。27日のFOMCは現況に配慮したガイダンスで、米株価も急激な引き締めを回避しそうなことで落ち着いた推移に見える。一方でロシアからの天然ガスの供給懸念でユーロ圏経済見通しへの重しが続くため、やはりドル選好の流れが変わることは見通しづらい。英国サイドからも特段のポンド支援材料は期待しがたい。4日(木)に注目の英中銀政策委員会の結果が予定されている。市場では0.25~0.50%利上げが織り込まれているがFOMCよりも利上げ幅が出ないこともあり予想以上のタカ派傾倒がなければポンド高要因としてはやや弱い。前述の天然ガスの状況が改善するようなことがあれば、ユーロにつれてポンドも上昇するリスクはある。なお、オプション市場で観測されるインプライドボラティリティは1週間の値幅を対ドルでおよそ±1%程度と見込んでいる模様。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(7/25~7/29)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1962 高値 1.2245 終値 1.2184

(対円) 安値 161.54 高値 166.34 終値 162.20



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 大谷 未央

(1) 今週の予想レンジ: 0.6910 ~ 0.7050 92.00 ~ 95.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは上昇する展開。週初25日、0.69台前半でオープンした豪ドルは豪金利低下を横目に週安値である0.6878まで下落。しかし、ロンドン時間にかけて0.69台半ばまで戻した。26日は翌日に豪4～6月期CPIの発表を控える中、0.6980台まで上昇。その後は米小売大手の業績見通しが下方修正されたことを嫌気して、米株価が下落する中、豪ドルも売り優勢となり0.6940近辺まで上昇幅を縮小させた。27日は発表された豪4～6月期CPIヘッドラインが市場予想を下回ったことから豪ドルは売りで反応し、0.6910台まで下落。その後海外時間に入り注目されたFOMCでは、市場予想通りの+75bpの利上げが決定され、その後のパウエルFRB議長の記者会見では、今後の利上げペースをめぐり慎重な姿勢を示したことで、ドル売りが強まり、豪ドルは0.7010台まで急上昇した。また、パウエルFRB議長の発言を受けて、米株が堅調推移したことも豪ドルのサポートとなった。28日は発表された豪6月小売売上高が前月比+0.2%と市場予想を下回る結果となったことで、豪ドルは0.69台後半まで下落。しかし海外時間に発表された米4～6月期GDPが前期比-0.9%と市場予想を下回り、2四半期連続マイナス推移となる中でドルが売られる中、豪ドルは0.70台を回復した。29日は前日の流れを引き継ぎドルが全面安となる中、豪ドルは週高値である0.7032まで上昇し、0.6990台で越週。

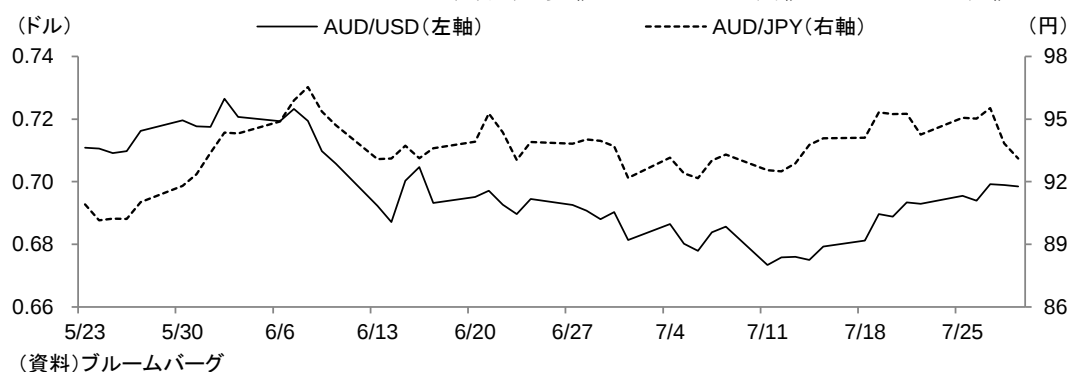
今週の豪ドルは底堅い推移を予想する。今週は2日(火)にRBAを予定している。先週発表された豪4～6月期CPIは市場予想対比下振の結果となったものの、前年比+6.1%と約21年ぶりの高い伸びとなった。また、RBAが重要視するトリム平均値は前期比+1.5%と1～3月期と同率の大幅上昇となっているほか、前年同期比では+4.9%と統計開始時以来の最大の伸びとなっている。今週のRBAについては、+50bpの利上げがコンセンサスとなっているものの、高い物価の伸びが継続している中、豪中銀はタカ派的なスタンスを維持すると考えており、豪ドルはサポートされよう。一方で米国では先週のFOMCで今後の利上げペースが緩やかになる可能性が示された他、米4～6月期GDPが2四半期連続マイナスになり、テクニカル的にリセッション入りする等積極的にドルを買いづらい地合いが継続している。リスクオフ時には豪ドルは売られやすい側面があるものの、米国における利上げペースの鈍化観測やそれを受けた米株堅調推移は豪ドルを支えたと考えており、来週の豪ドルは底堅い推移を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(7/25～7/29)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6878 高値 0.7032 終値 0.6991

(対円) 安値 92.88 高値 95.70 終値 93.12



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。